

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。
点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

| 令和元年5月末見通し | 令和元年8月末見通し | 令和元年11月見通し | 令和2年2月見通し |
|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| +70千トン [2375千トン] (101.9%) | -25千トン [2300千トン] (96.8%) | -11千トン [2289千トン] (99.5%) | +61千トン [2350千トン] (102.7%) |
| 2400千トン(101.1) | 2350千トン(102.1) | * | * |

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

| 令和元年6月末 | 令和元年9月末 | 令和元年12月見通し | 令和2年3月見通し |
|---|---|---|--|
| 鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は90,300円で前年比+4,000円、前期比±0円。メーカーの相次ぐ設備トラブルで出荷遅れが生じ、需給のタイト化を懸念していた。しかし、建築需要は堅調なものハイテンションボルトやコラム、特に大径角の入手難により中小物件の工期遅れが生じ、予想以上に荷動きが落ちた。全体的に需給はタイトどころか逆に緩んだ。 | 鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は89,100円で前年比+400円、前期比-1,200円。市中在庫の過多の状況が続いており、思ったほど在庫が減少しなかった。市況は弱含みだが、なんとか維持。流通の採算悪化が悪化。8月は夏休みムードに陥ったことにより全体的に落ち込んだ。9月に入っても需要は落ち着いており、消費増税の駆け込み需要も全くなかった。 | 秋需の気配は少しあったが、昨年のような秋需の盛り上がりは感じられなかった。土木関連で多少動きが見られるものの大型物件が少なく、建築は動きが見られるものの大型物件が少なく、建築は端境期で低調さは続くと見られる。スクラップ価格がここへきて反発し、流通の市況はなんとか維持しているが、一部で安値も散見されている。ユーザーで信用不安も出てきている。流通は需要の盛り上がりがないため仕入を抑えている。 | 需給にタイト感のない状況が続くと思われる。先行きの需要も不透明である。市況は、現状維持がやっとならう。季節的要因もあるが、全般的に需要は若干減少傾向にあり、1～3月期は稼働日が少なく、低調な販売が続くだろう。高力ボルト不足は解消されつつあるが、建築需要の好転は考えづらい。製造業関連も秋口からの低調さが今後も続くと思われる。 |

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流通動態調査10月結果によれば、10月在庫量は229,896トン前月比-2.7%、前年同月比+4.1%、在庫は前月比減少、前年同月比では増加しました。在庫率は119.7ポイントと先月より下降しました。

高力ボルト不足が解消されつつある中、中小建築物件も徐々に始めているが、昨年のような需要の勢いは感じられず、販売量は前年より大きく落ち込みました。

4. 大阪の動向

(大阪) 秋需の時期ではあるが、昨年に比べると1割以上荷動きが落ちている。ハイテンションボルト問題は解消に向かい、中小物件は出てきているが荷動きは物足りない。来期は稼働日数が少ない分、販売総量は落ちる。世界経済の不透明感は依然継続しており景気の回復は望めないが、政府の消費税増税後の大幅な経済対策や災害対策としての国土強靱化政策などを考えると徐々にではあるが内需を中心に回復気配が出てくるものと思われる。公共土木にもようやく動き出す気配が出てきたので、今後の展開に期待したい。